

令和5年度 学校評価一覧シート

愛知県立半田工科高等学校

項目担当	本年度の重点目標	(1)生徒個々の能力の向上を図る。 (2)地域への情報発信をより高め、開かれた学校づくりを推進する。 (3)組織内で相互理解を深め、協力体制を構築する。 (4)校務の効率化、適正化を推進し、業務改善を図る。	
	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T Aとの連携を深める ・ 式典行事の円滑な運営 ・ 防災教育の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A活動の活性化に努める。また、P T A活動等の案内について、メール配信等を積極的に活用する。 ・ 職員間の協力体制を整え、式典行事に取り組む。 ・ 防災意識の向上につながる防災訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全メール等を活用し、P T Aと密に連携して取り組むことができた。 ・ 多くの職員と相談し、協力していただきながら実施することができた。 ・ 4月には火災、9月には地震を想定した防災訓練を実施した。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の向上 ・ 広報活動の充実 ・ 学科選択、科目選択の十分な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高める。 ・ 中学校の進路説明会や、地域交流を通じ本校の魅力を発信する。 ・ 生徒の適性および進路先に応じた学科、科目選択ができるように校内連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を大切にすることを高め、学力の向上につなげることができた。 ・ 中学校の進路説明会や中学校訪問において、本校の情報発信ができた。 ・ 学習意欲や知識・理解を高めるため、ICTを積極的に活用していく。 ・ 追試該当者、追試不合格者に対する指導により、一定の成果が得られた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的行動の確立 ・ 安全・安心な学校生活の実現 ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ いじめの未然防止、早期発見、適切な対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登校時において挨拶の励行、みだしなみ確認、事故防止に配慮した自転車の乗り方指導を実施する。 ・ 人権に関する指導の充実と交通事故の防止及び薬物乱用防止に努める。 ・ 生活アンケートを利用した情報収集と、家庭や地域社会との連携を図り、いじめの未然防止・早期発見に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎朝職員による登校指導により、生徒の様子や身だしなみ、自転車の交通安全指導などを行うことができた。 ・ 外部講師による講話を行うことで、現在の状況や、どのように行動すべきかを生徒に伝えることができた。 ・ 生活アンケートをもとに担任による迅速な面談を行い、問題解決につなげることができた。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路意識の高揚 ・ 自分に合った進路選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の目標を持たせ、自己実現に必要な能力を伸長できるように援助する。 ・ 勤労観・職業観を育成するため、進路への知見を広めさせる情報提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年生は、行事や進路希望調査により進路希望の具体化を図った。3年生は定めた進路目標の達成に向けて、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸長させるための試験対策などの取り組みができた。 ・ キャリア形成を目的とした行事等を通して、自らの視野を広げさせ、この先必要な能力や態度を認識させることができた。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 健康意識の向上 感染症の予防 生徒相談体制の充実 校内美化・環境整備の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断、保健講話、毎日の健康観察を通じて健康への意識を高める。 教室の換気、手指消毒、加湿器等の適切な使用を通じて感染症等の予防に努める。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、担任、相談係と連携し、教育相談体制の充実を図り、情報を共有し問題解決に取り組む。 清掃を毎日全員で実施し、ごみの分別と減量を図り、校内美化・環境整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検診は予定通り進めることができた。朝の健康観察を通じて生徒の健康状況の把握がスムーズにできた。保健講話では外部講師による「がん教育」を行った。 生徒保健委員の活動により加湿器のフィルター清掃・管理を行うことができた。それによって加湿・換気の注意喚起を行うことができた。 個々の生徒について相談委員会やその後の職員会議での情報共有を行った。さらにきめ細かい相談・支援体制の充実を目指す。 生徒厚生委員の活動を通じて、分別の意識付けとごみの削減が実施できた。
図書情報部	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用者の向上 校内の ICT 強化 広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館だより」を通じて本や企画の紹介を行い、図書館利用を呼びかける。 ICT 機器を各教室に設置をし、授業展開の ICT 化を図る。 宣伝資料の作成やホームページを更新し、中学校の教員や生徒および保護者、企業関係者に積極的にPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりは例年通り発行した。また、昨年度と比較して、考査前の自習室として、図書館を利用する生徒が増加した。 全教室に設置はできなかった。来年度の課題である。 「工科-Times」の作成と配布を行った。また、ホームページを更新し、校外へのPR活動を行った。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実 部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 執行部の生徒と企画について話し合い、時代や生徒の実情に応じた内容とする。 体験入部期間を設けて3年間活動する部活動を真剣に考えると同時に、校内、校外への情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事内容の精査をし、一部変更することができた。 体験入部を行ったことで連日多くの生徒が参加している姿が見られた。また、来年度の部活動紹介動画を作成し、外部への発信を行う準備を進めることができた。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ精神の育成 中学生体験入学の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 資格の情報を正確に素早く提供し、資格取得に対し前向きに取り組む姿勢を育てる。 体験入学の案内や実施方法を検討し、中学生が興味を引く内容を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格・検定の予定を年間行事計画に記入し、ホームページで確認できるようにした。学校の掲示板に検定等の案内を掲示することに加え、教室掲示も確実に実施した。 各中学校への体験入学案内送付を行うと同時に、ホームページへの掲載を行った。申し込みをWebで行うことで、名簿管理の効率化ができた。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
ロボット工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・工業人としての意識付け ・ロボット工学において必要となる知識の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・課題研究や座学の授業、定期考査を大切にす。そのため授業の開始時間の厳守や、あいさつ、正しい言葉遣いをはじめとした授業規律を確立し、自ら学習できる環境を整える。 ・協働ロボットの制御や、シーケンス制御などをはじめとした、『設備設計・製作』の考え方を基本とし、日々の授業で力を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の集合・点呼行うことにより、時間を守る意識を身に付けることができた。また、様々な場面において行動や言葉遣いを指導することができた。 ・実習内容のバージョンアップを図り、興味を持てる実習づくりができた。今後はさらに興味を持てる実習を立案すべく、内容の検討を行う必要がある。
機械科	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度の醸成 ・工業人としての意識の向上 ・学習内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・製図や資格・検定や就業体験などの体験を通し、専門学習に力を入れる。 ・安全教育、5S活動など工業の現場で重要視される事柄の定着を図る。 ・授業・実習の連携した展開を進める。座学内容を精査し重複を避け、力点を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格・検定では旋盤技能士、機械プラント製図技能士について希望者に受検指導し実施することができた。また、夏季休業中に「技の探究講座」、「クラフトマンⅢ」、「インターンシップ」などに取り組ませることができた。 ・安全意識の向上、ヒヤリハット事例、危険予知など職員・生徒の意識が高まった。 ・実習と座学の連携の他、複数の教科担任で受け持つ授業について、意見交換が頻繁になり、共通意識が高まった。ICT活用する機会が増えた。
電気科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実 ・職業人としての資質の育成 ・魅力ある学科づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や資格取得の補習を通して、基礎学力及び電気に関する知識と能力を高める学習指導をする。 ・積極的に生徒へ寄り添い、規範意識の育成、挨拶の励行、正しい言葉遣いを実践しコミュニケーション能力の育成を図る。 ・競技大会や地域イベントに積極的に参加し、生徒が活躍できる機会を提供し外部へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力及び電気に関する知識と能力を高めることができ、電気工事士試験を始め様々な資格に多くの生徒が合格できた。 ・いろいろな場面で積極的に生徒へ声かけを行い、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。 ・競技大会は優秀な成績を収めることができた。また、中学生体験入学は生徒主体で行うことができた。
建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実 ・専門科目への学習意欲向上 ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学や、かわら版をとおして学科の魅力を発信する。 ・生徒が達成感を得られるよう指導内容を工夫改善する。 ・建設業の魅力を伝え、卒業で受験資格が得られる二級建築士に挑戦する生徒を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学で、本科が印象に残ったと答えた中学生が5割を超えていた。 ・BIMや城郭模型など興味を引く新しい内容を取り入れた。製図コンクールでは6名の入賞者が出た。 ・教科の内容と並行して、二級建築士や施工管理技術検定の内容に取り組むことで卒業後の受験への意識付けをした。
都市工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業において必要となる知識の習得 ・基本的な生活習慣の育成 ・地域社会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本を重視し、就業を意識した授業展開を実施する。 ・礼儀、けじめ、正しい言葉使いを教え、社会人としての心構えを教授する。 ・地元企業を中心とした繋がりを大切に、現場見学会、出前授業等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の内容を反復伝えることにより、就業時に活かすことのできる知識を教授することができた。 ・生徒が社会に出ることを念頭に置き、細かな礼儀、言葉使い等を伝えることができた。 ・地元企業の協力を得ることができ、現場見学会、出前授業を実施することができた。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・規律の確立 ・資格取得の励行 ・学科選択の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの活動における声掛けやコミュニケーションを取りやすい関係を作りながら指導する。 ・授業や補習を通して、自学自習できるよう指導する。 ・実習や座学を通して、工業への興味関心を高め、個々の能力にあった学科選択の指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、基本的な生活習慣が確立されており、堅実な生活態度を守ることができた。 ・学年で資格取得に向けて補習を行い、それを機に他の資格取得への意識付けをすることができた。 ・生徒へのきめ細かな指導や面談により、それぞれの適性にあった学科選択を行うことができた。
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識の高揚 ・生徒個々の学力の向上 ・自ら考え主体的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携をはかり、ガイダンスの充実や職業や学問に対する理解を深め自己実現ができるように援助する。 ・授業や補習の工夫改善を図り、生徒の知識と能力を高めるよう指導する。 ・時と場所に応じて適切な行動がとれるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講話やガイダンスを通して、将来に向けた意識の拡充や、各クラスのL Tの時間を用いて求人票に目を通す機会を作るなど、進路選択に向けた意識付けができた。 ・ICTなどを活用して、学習意欲や知識・能力を高めることができた。 ・修学旅行や学校生活を通して、適切な行動がとれるように指導できた。
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の習得 ・適正な進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての意識付けや、修学旅行での行動を通して、社会人として必要なマナーやモラルを高める。 ・面談や進路指導講話等を通して、生徒の特性を理解し、適切な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の他、場面に応じた適切な指導を行うことで生徒の規範意識を高めることができた。また、スーツ着こなし講座を通して、社会人として必要な身だしなみやマナーなどを身に付けさせることができた。 ・生徒の特性を理解した進路指導により就職、進学合わせて9割以上の生徒が希望の進路を実現することができた。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立について ・学校行事、部活動の充実・発展について ・資格取得の推進について ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めることについて 	